



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	論文紹介 : 教育学の学習とフィンランドの中等教員養成
Author(s)	大野, 栄三
Citation	北海道大学教職課程年報, 2, 31-31
Issue Date	2012-03-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49483
Type	other
File Information	Ohno.pdf



論文紹介：教育学の学習とフィンランドの中等教員養成

大野 栄三

本論文は、2010年11月6日に北海道大学大学院教育学研究院で開催されたヘルシンキ大学教師教育学科長 Jari Lavonen 教授の招待講演「Teacher Education in Finland: Knowledge Building in the Chemistry and Physics Teacher Education Programme at Helsinki University」において配布された講演資料である。化学教師や物理教師の養成教育を事例にして、フィンランドにおける教員養成の現状とその分析を述べている。本誌前号に、この招待講演のスライドを掲載しているが、本論文とあわせて読むことで、さらに理解を深めることができるだろう。また、化学と物理という領域に着目して分析していることは、教員養成における領域固有性を考える上で参考になる。

本論文によれば、フィンランドの教員教育プログラムを体系化する上での一貫したテーマは、研究に即したアプローチ (research-based approach) である。研究に即したアプローチのねらいは、学生 (student teachers) が充実した知識ベースを構築し、それを教職に応用する力を身に付けることである。そして、すべての学生が、持続的な専門職能開発ができる力 (たとえば、教育の理論的知識を教職に活用していく力) を獲得することを目標としている。

フィンランドにおける物理、化学の中等教員養成は理学部と教育学部の共同で行われる。学生は特定の専門領域 (物理学や化学) を専攻するとともに、教育学を教師教育学科で学ぶ。ヘルシンキ大学の教員養成は、修士課程までを含む教育である。この教員養成課程には、中等教員は担当教科のしっかりとした能力 (専門知識) をもっていなければならないという前提がある。そのため、専門教育 (物理または化学の理学士レベル) と数学教育が総単位数の半分以上になる。さらに、それら専門的知識を教育の実践的知識と結びつけるために教育学の学習 (pedagogical studies: 教育実習を含む) が課せられている。

本論文では、教員養成教育で要求される教育学の学習が、知識構築の観点から分析されている。この分析の理論的枠組みは、教師の知識に関係する二つの側面: 教師の知識の範囲と源とを基礎にしている。教師の知識範囲は、Shulman に倣って、大きく3つのカテゴリー、content knowledge、pedagogical content knowledge、general pedagogical knowledge に分けられる。そして、教師の知識の源は、教育学研究 (専門的知識を得る) と教育現場での経験 (実践的知識を得る) の2つに分けられる。教員養成教育は、これら2つの源から得られる知識を結びつけなければならない。フィンランドの中等教員養成の課程には、教育学の研究成果を使いこなすだけでなく、教育についての研究成果を新しく生み出すという観点も付加されている。経験の乏しい学生に対して、現職研修などで有効な方法 (たとえば、アクションリサーチ) を使うのは難しい。学生に適した反省的实践が必要であり、自己評価などの作成を重視した教育や、実践と理論を結合するための学生自身による小規模な研究が教育学の学習で行われている。教育学の学習が、教師の知識をどのように構築しているのか。本論文をぜひ読んでいただきたい。